

政治・経済定点観測レポート

## ウズベキスタン NOW

【第 49 号:2018 年 1 月－3 月期】

- \* 本レポートは ROTOBO の協力者である現地専門家の執筆によるものです。内容は執筆者の個人的見解であり、ROTOBO の組織的見解とはいかなる意味でも関係ありません。内容の無断転載、引用は堅くお断りします。

### 経済概況

#### 2017年のウズベキスタンのGDPは249兆1,300億スムを上回り、成長率は5.3%

国民一人当たりのGDPは前年比3.6%増の769万スムに達した。GDPデフレーターは前年に比べて18.9%増加した。

GDP成長への寄与度が最も大きかったのは、前年に比べて6.9%成長したサービス分野であった。そのうち、宿泊・外食サービスを含む商業の成長率は3.9%（GDPに占める割合は11.5%）、運輸・倉庫、情報・通信の成長率は8.9%（同11.0%）、その他のサービス分野の成長率は7.3%（同24.8%）であった。

鉱工業付加価値は前年比4.6%増でGDPの26.7%を占めた。鉱工業部門の成長に寄与したのは、鉱業・採石業（14.6%増）と製造業（2.8%増）の付加価値の増加である。

2017年には農業部門も2%程度のプラス成長となった。GDPに占める農業の割合は19.2%であった。

所有形態別のGDP構成比をみると、民間部門が81.0%、公的部門が19.0%であった。

#### 2017年の貿易額は約270億ドル、うち輸出額は約140億ドル、輸入額は約130億ドルに達した

貿易収支は9億4,550万ドルの黒字であった。

輸出額のうち最大の割合を占めたのは綿で25.1%、エネルギー資源・石油製品が14.2%、鉄・非鉄金属が6.6%、化学・石油化学製品が6.3%、食品が6.3%であった。

輸入額のうち最大の割合を占めたのは機械・機器で38.9%、化学製品が16.5%、鉄・非鉄金属が9.8%、食品が9.8%、サービスが7.5%、エネルギー資源・石油製品が5.7%であった。

CIS加盟国のうち主な貿易相手国はロシア、カザフスタン、ウクライナ、キルギスおよびタジキスタンで、この5カ国が貿易額の28.7%を占めた。その他の主な貿易相手国は中国、トルコ、韓国、ドイツ、アフガニスタン、ブラジル、インド、イラン、ラトビア、リトアニア、フランス、米国、イタリアで、この13カ国が貿易額の41.6%を占めた。

2018年の輸出額は121億ドル以上となる見込みである。この予測は、ウズベキスタンの代表団による中央アジア諸国、中国、ロシア、韓国、米国、トルコおよびその他の国々の訪問時に締結された合意に基づくものである。

### **中央銀行は2018年のインフレ率が高水準となるものと予測**

2018年のウズベキスタンのインフレ率は11.5～13.5%、経済成長率は5.5～6%前後となる見込みである。中央銀行は、できるだけ短期間でインフレ率を一桁台に引き下げるため、あらゆる必要な措置を取る意向を示している。

2018年3月にウズベキスタンを訪問した国際通貨基金（IMF）代表団は、インフレについて異なる見方を示している。たとえば、IMFの手法に基づく推計によると、インフレ率は約20%である。なお、IMFは、インフレ指標は過去と同等の水準にあるが、インフレをもたらした原因は肯定的なものであり、国内で進められている改革に関連していると指摘している。IMFは、今後2年間でウズベキスタンのインフレ率が10%を下回る水準に落ち着くものと予測している。

IMFの予測によると、今後2年間の経済成長率は約5%となる見込みである。IMFは、農業および住宅建設部門の発展がGDP成長の主な要件になるものと予測している。

### **2018年2月1日時点の金・外貨準備が前月比6億8,250万ドル増の270億ドル超に**

2017年初時点の金・外貨準備は252億ドルとされていた。2018年2月1日時点の外貨準備は147億ドル、金準備は139億ドルに達した。

## **貿易**

### **ウズベキスタンは世界貿易機関(WTO)加盟を加速する意向**

WTO加盟交渉は2018年中に再開される予定である。そのため、政府は国内の経済関連法および規制をWTOの規則に整合させる作業を開始している。省庁間特別委員会がこの作業を行う。ウズベキスタンにとってのWTO加盟の影響を評価するための一連の調査の実施および加盟に必要な改革の立案が計画されている。

## **投資・金融セクター**

### **2017年の対ウズベキスタン外国投資が前年比40%増加**

同年の外国投資額は24億ドルを上回った。なお、投資総額に占める外国投資の割合は2016年の15.3%から2017年には20.4%に増加した。

### **ウズベキスタン政府が投資誘致と投資プロジェクト実施のメカニズムを見直し**

ミルジヨエフ大統領は、経済の各部門における資金調達と投資プログラム形成のシステムを批判した。その結果、プロジェクト立ち上げのメカニズムとより有望な取り組みの選定基準を見直す作業が行われている。税制上およびその他の投資家向けインセンティブ・ツールの見直しや輸出入規制の改正が行われる見込みである。

ウズベキスタンでは、2018年については従来のような投資プログラムが採択されなかった。各部門および地域に対し、10年間の投資誘致戦略を策定するという課題が掲げられた。策定に際しては、推計人口および各地域・部門に特有の「成長ポイント」を考慮しなければならないこととされている。

### **ウズベキスタン政府が輸出のための融資メカニズムを創設**

具体的には、ウズベキスタン製品のキルギスおよびタジキスタン向け輸出に対して国内銀行が融資を行うことにつき合意が成立した。たとえば、国立対外経済活動銀行、アサカ銀行、プロムストロイバンクが、キルギスのRSK銀行およびアウル銀行と、ウズベキスタン製品・サービスを輸出する商取引にかかる与信限度と融資メカニズムを確立するための協力協定を締結した。クレジットラインは総額1億ドルである。

最初に締結された契約は、アウル銀行を通じたリファイナンスによるウズベキスタンの農機輸出に関するものであった。この契約では、農機組み立てのため、特別与信枠により総額60万ドル相当の機器、附属設備および部品が輸出される予定である。

### **エネルギー・セクター**

#### **ウズベキスタンは原子力分野におけるロシアとの協力を拡大する予定**

2017年12月、上記内容の協定が締結された。両国が互恵的協力を拡大する上で有望と考えているのは、インフラの建設と整備、ウズベキスタンの原子力分野の人材育成、ウズベキスタンにおける原子力発電所や研究炉の建設、それらの全ライフサイクルにわたる支援といった分野である。さらに、ウズベキスタンのウラン鉱床の探査・開発および鉱物資源基盤調査、ウラン鉱滓処分場の再生、放射性同位体の製造と産業、医療、農業における活用、学術・基礎研究も共同事業としての可能性がある分野とされている。

#### **ウズベキスタン・テミル・ヨラリが石炭部門子会社の財務健全化計画を発表**

これに先立つ2017年、ウズベクウゴリはウズベクエネルギーからウズベキスタン・テミル・ヨラリの傘下に移された。具体的には、「株式会社シャルグンクミル近代化」投資プロジェクトの枠組みにより、同社の石炭生産能力を年間90万tに拡大する計画である。中国企業China Railway Tunnel Group (CRTG) が総延長1,500mの古びた廃坑10カ所の整備および石炭増産のための2,227mのトンネル掘削作業を担当し、プロジェク

トの実施を開始した。事業費は総額 1 億 550 万ドルである。準備作業の完了と生産開始は 2020 年第 1 四半期に予定されている。

一方、経済省は「2021 年までの石炭産業発展・近代化プログラム」の目標値を発表した。これによると、石炭生産量を現在の 440 万 t から 1,110 万 t に増やす計画である。同プログラムでは、新たな設備の建設および既存設備の近代化が計画されている。

## 二国間関係

### 2018 年 2 月、ウズベキスタンと韓国が出稼ぎ労働者の受け入れ枠拡大に関する協議を開始

一部の専門家の評価によると、韓国ではウズベキスタンからの出稼ぎ労働者数万人が不法就労している可能性がある。なお、公式には、2007～2016 年に韓国で就労資格を取得したウズベキスタン国民は 2 万 7,000 人しかいなかった。したがって、受け入れ枠が拡大された場合、すでに行われている不法就労が合法化されることになる。2017 年 11 月のミルジヨエフ大統領の韓国訪問に際し、ウズベキスタン雇用・労働関係省と韓国人事革新処が協力に関する覚書を締結した。

### ウズベキスタンとタジキスタンが二国間協力を活性化

2018 年 3 月、ミルジヨエフ大統領のタジキスタン訪問に際し、様々な分野の協力拡大に関する一連の協定が締結された。近い将来、両国は貿易額を現在の 2 億 4,000 万ドルから 10 億ドルに拡大する意向を示している。

たとえば、ウズベクエネルギーとタジキスタン・エネルギー・水利省は、2018 年のピーク期に互恵的な技術・経済的条件によりタジキスタンがウズベキスタンに最大 15 億 kWh の電力を供給することにつき合意した。一方、タジキスタンは市場価格の 2 分の 1 の価格でウズベキスタンからガスを購入する。2018 年、ウズベキスタンはタジキスタンに 1,000 m<sup>3</sup> 当たり 120 ドルの価格で 1 億 2,600 万 m<sup>3</sup> のガスを供給する予定である。

両国は共同工業生産の可能性についても検討を行っている。また、輸送およびトランジット輸送分野における連携も戦略的分野として挙げられている。

### ウズベキスタンとキルギスは産業協力を拡大する意向

キルギスにおいてウズベキスタン資本が参加し、自動車保守、農機組み立て、プラスチック部品製造などの分野の企業 9 社を設立することが検討されている。

9 社のうち 7 社は合弁企業となる予定である。たとえば、ウズベキスタンの Artel Engineering とキルギスの L.T.B は Artel ブランドの洗濯機のアセンブリ生産を行う計画である。また、ウズベキスタンの Perfect Plast Profil とキルギスの イムゾ LTD はプラスチックやアルミの成形材を製造する工場を建設する。

ウズアフトサノアトは、キルギスのアフトオンドオザヴォドと共にキルギスに農機とトレーラーの組み立て工場 2 社を設立する。また、ウズアフトサノアトはキルギスのDTテクニクおよびアフトツェントル・エスタカダと共にバスの組み立てと保守を行う工場を設立する。また、アフトツェントル・エスタカダとラヴォン・モータース・テンションは、自動車組み立て工場とディーラー・センターの設立について合意している。

さらに、Artel Engineeringは、キルギス支社の開設およびエンターテインメント施設 MediaParkの建設を計画している。

## 輸送・機械工業セクター

### ウズベキスタンは貨物輸送車台数を3,800台以上に拡大する計画

上記の目標値は、2018年3月6日に承認された2018～2021年の自動車輸送マネジメントシステム改善施策プログラムに示されたものである。国内の運送業者による大型貨物輸送車の購入は、自己資金、銀行の融資、借入れおよびその他の資金源により行われる予定である。

リース会社および国際運送業者は、輸入した、ならびに国内メーカーから購入した新車の貨物輸送車につき、2022年1月まで共和国道路基金への積立金の支払いを免除される。

これに先立つ2017年には、排気量2,800cm<sup>3</sup>以下の中古の貨物輸送車につき、物品税が70%から30%に引き下げられた。また、同年、ベラルーシ、ロシア、カザフスタン、ウクライナで製造されこれらの国から輸入された新車のセミトラクターおよびその他の貨物輸送車の物品税が廃止された。

### ウズベキスタンとキルギスの間で自由通行体制が発足

2018年1月、国際自動車交通に関する1996年9月4日付両国政府間協定を改正する議定書が発効した。この議定書によると、両国は、自国領内における自由通行体制を相互に提供および保証するとともに、タシケント～アンディジャン（ウズベキスタン）～オシ～イルケシタム（キルギス）～カシュガル（中国）間自動車道路による輸送を行うために良好な条件を整備する。さらに、2018年1月1日、ウズベキスタンと中国の間でも国際自動車交通に関する政府間協定が発効した。

2018年2月25日以降、ウズベキスタンの運送業者は3カ国共通の輸送・税関書類を利用して上記道路を通行することができるようになった。ウズベキスタン貿易省の評価によると、この道路での貨物輸送車による5フィートコンテナの輸送コストは約2,000ドルで、ホルゴス～アルティンコリ～アルマトィ～タシケント間鉄道ルートによる輸送コストより20%安い。

## その他のセクター

### ウズベキスタンが繊維産業の発展に対するアプローチ改革を開始

2018年1月25日付政府決定によると、同年、総面積14万900ヘクタールの土地に13の繊維クラスターが形成される予定である。クラスターでは、綿花の栽培から一次加工、精綿工場におけるさらなる加工、最終繊維製品の生産までの一貫生産サイクルの形成が計画されている。

綿花の価格は、農場の収益性を考慮した上でコストに基づき繊維クラスターの管理者が独自に設定することが決定された。これまでは、政府が国家調達の手組みにより買付け価格を決定しており、余剰分は取引所での競売により国際価格に近い価格で売買されていた。